

南半球便り（その 27）：警察談義

8 月 20 日

先日、豪州連邦警察のカーショー長官ご夫妻を公邸にお迎えして懇談しました。そこで、今回は警察の話をしていきましょう。



カーショー連邦警察長官との記念写真

1. 連邦警察トップ

豪州では各州に警察機関があります。これらの州レベルの警察を連邦政府レベルで束ねているのが、連邦警察（AFP）です。州をまたがった犯罪捜査や国際協力を所掌するほか、キャンベラが所在する首都特別区の治安を受け持っています。

したがって、豪州各地に居住する 10 万人前後の在留邦人の方々の治安と安全は、AFP の協力無くして確保できません。また、テロ、組織犯罪、薬物犯罪などへの対処に当たって、日本の警察庁と緊密な協力関係にあります。

また、日頃大使館や大使公邸で開催される各種の大型行事に当たって、安全の確保に当たってくれているのも、彼らなのです。

2. 警察出向経験

こうした事情があるので、日頃の協力を謝意を表明するとともに、今後いっそう緊密な協力関係を築く一助とすべく、公邸にお招きした次第です。

ただ、実際はそれだけではありません。私には、警察官であった過去があります。

2007年から9年までの2年間、外務省から警察庁に出向して茨城県警察に配属され、県警ナンバー2の警務部長ポストを務めました。

このような経歴があるだけに、警察庁から大使館に出向してきている谷参事官と共に、カーショー長官に日本大使公邸に初めてお越しいただきお話をうかがうことを楽しみにしていた次第です。



茨城県警察時代の私



茨城県庁

3. 共通の苦勞

話が進むにつれ、日豪の共通点が次々に見えてきました。

いずれの国でも、通常の公務員に比べると警察官への国民の信頼が高いこと。同時に、警察が何をしているかについては、犯罪捜査や交通警察のような分かりやすい面は別として、必ずしも一般社会の理解を得られていないこと。

先日、私がナショナル・プレス・クラブで講演をした翌週に、カーショー長官が講演をされました。その背景には、AFPの活動について豪州国内の理解を深める必要もあった模様です。実際、外国からの不当な干渉の防止のためには、豪州治安情報機関（ASIO）のような情報機関だけではなく、警察当局との連絡が不可欠であり、講演では、両機関が密接に協力して事案に当たっていることなども説明されました。

私自身は、県警の広報を担当し、その関連で不祥事対応に苦勞した経験があります。法執行機関としてより高いスタンダードを満たさなければならず、世論の厳しい目にさらされるだけに、そうした面での苦勞話にも花が咲きました。



職務にあたる AFP（出典：2017 Australian Federal Police）

4. 鉛のような責任の重さ

警察組織に勤務して感じたのは、「常在戦場」と言うことです。いつ何時事件が起きても即座に対応できるようにしておく。このことから来る、高い責任感と息詰まるようなプレッシャーは、警察官の職にある人間が国境を越えて共有しているものです。

俄作りの警察官であった私でさえ、水戸での県警勤務を終え、利根川を渡って茨城県を後にした途端、急に重荷から解放され、言い様もない開放感に包まれたことを昨日のように覚えています（県警時代の思い出話は、添付の2020年6月24日付日本経済新聞「交遊抄」に綴りました。）

交遊抄

水戸の侍 山上 信吾

「警務部長、ご安心ください。茨城の警察官は部長の背中を刺したりしませんから」。警察庁に向い、水戸に着任した私を迎えた古参幹部の歓迎の辞であった。外様の私には物騒で武骨だったが、面従腹背はせぬという侍の誓いだった。

「制服は俺たちの誇り。部長も毎日着てください」。県警での日々は、制服に着替え、敬礼、拳銃を学ぶことから始まった。当時「教官」を務めてくれた一人が原田哲也さん。現在は刑事部長だ。同じ年で、国を思っ気持ちは共有した。

通り魔連続殺傷、取調中の被疑者逃走、被留置人金品の窃盗など、県警に強い逆風が吹き続けた。共に悩み、走り、泣いた。何より最前線で体を張って治安を守る警察官の献身、忍耐、矜持に学んだ。後に私が公使として英国へ飛び立つ際、成田で餞の言葉をもらった。「殺人捜査やヤクザの相手は俺達がやる。外交の場で闘ってきてくれ」

あれから十余年。毎年、梅香に誘われ水戸を訪れる。待っているのは、彼がアレンジしてくれる侍達との語らいと茨城の銘酒。先日、茂木外相が安倍総理に私を紹介した際に「外務省で一番制服が似合う男」と気遣っていた話を報告した。みな破顔一笑し「うんうん」とうなずいてくれた。侍に少し恩返しできた。（やまがみ・しんじ）『外務省経済局長』

日本経済新聞 2020年6月24日掲載

今回の公邸での懇談が日頃激務に追われている連邦警察長官を一時でも解放することになったのであれば、幸いです。

5. 日豪協力の重要な柱

警察間の協力は、法の支配、民主主義と言った基本的価値とインド太平洋地域での戦略的利益を共有する日豪両国間にあって、重要な協力の柱です。制服を脱いだ私ですが、あの当時の心構え、そして引き続き治安の最前線で毎日 24 時間、週 7 日、一年 365 日欠かすことなく汗をかき続けている日豪の警察官の献身と犠牲を想起しながら、適切な環境作りに微力を尽くしていきたいと思います。

山上信吾